

『地域研究のためのフィールド活用型現地語教育』

平成20年度派遣報告書

——タイ・タマサート大学、タイ語、派遣期間(H20. 12. 5-H21. 3. 21)——

平成 20 年入学

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

博士課程 2 回生

田中 孝典

自身の研究について

ビルマ南部からタイ北部にまたがった山岳地帯を中心とする地域には、*Melanorrhoea usitata* という木の樹液（ビルマ漆）を利用する在来技術が存在する。ビルマ漆を利用するタイ・ビルマの漆工芸は、*Rhus vernicifera* の樹液を用いる中国・日本の漆工芸と多くの共通点を持ちながらも独自の特徴を有する。例えば、東アジアにみられる漆器の多くは木を素地としているが、この地域の漆器では竹材や馬毛といった生物資源が巧みに組み合わせられ素地として利用されている。また日本では「蒟醬」の名で知られている鉄筆を用いた精巧な装飾技法も、タイ・ビルマ地域で発達した。

Melanorrhoea usitata の樹液は、ビルマ・タイ国境付近の山岳地域で山地民、特にシャン族の手によって多く採取されているとされる。シャン族はタイ族の一派であり、シャン語はタイ諸語の1つである。また現在ビルマ国内でみられる漆器製作のスタイルはタイ・ビルマ間の戦乱を通じて北タイ地域からビルマ国内に伝播したものと考えられている。

申請者の研究はタイ・ビルマの漆工芸を、その材料とする生物資源に着目し、調査する事を目的としている。タイ北部でフィールド調査を行うにあたり、タイ語の修得は必須であると考えた。



Melanorrhoea usitata

研修言語の概要

タイ語はタイ王国の公用語である。タイ・カダイ語族タイ諸語南西タイ語群の1つであり、タイ文字を使用する。孤立語としての特徴を示し、5つの声調と有気音・無気音を区別する声調言語である。

タイ語には方言が存在する。例えば東北タイで話されている言葉はバンコクで話されているタイ語よりはラオスで話されているラオ語に近い。ただしタイ国内では学校教育を通じた国語教育が定着しているため、バンコクを中心として話されている標準的なタイ語はタイ国内の大半の地域で通用する。

語学研修の内容について

タマサート大学ではITPで派遣された私と佐治史さんのために週4日間、1日およそ3時間の講義形式の授業が3ヶ月間にわたって開講された。タイ語をご教授くださったのは教養学部タイ語学科の6人の先生であった。

授業は主としてタマサート大学によって独自に編集されたテキストを中心に進められた。テキストはタイ文字の読み書きと日常会話とに関する2種類の課によって構成されており、およそ2か月間で全体を終了した。

テキストを修了したのち、タイ文字のみで書かれた短文の読解を中心とした授業が進められた。短文の読解は、最初タイでの習慣や経済に関する一般的語彙に関するものを読み、次に私と佐治さんそれぞれの研究テーマ(水上マーケット・漆工芸)に沿った内容の文章を読むという順序で進められた。

また、こうした授業の間にタイ語学科4年生の皆さんによって企画された研修旅行(仏教寺院、史跡を巡る)に参加させていただいた。また、先生方の引率によって水上マーケット・漆芸工房を見学するという貴重な機会にも恵まれた。



研修旅行の様子

研修期間中に印象に残った体験や経験

タマサート大学の先生方は温かくご指導してくださり、慣れない私達のタイでの生活を気遣ってくださった。

授業では、6人の先生から指導を受けることで、タイ語の綴り方や書体に個人差がある事が分かり、良い経験になった。色々な性格の先生からタイ語を学ぶのは楽しかった。

タイを形容する言葉に「微笑みの国」というのがあるが、日常的に接するタイの人々はむしろ率直だった。携帯電話屋で難しい説明を聞いている時に、分からないので愛想笑いをしていたら、ニコニコしながら説明してくれていたお姉さんが段々真顔になり「これは大事なのよ！」と真剣に教えてくれた。

信心は生活の中で直接表現されていた。市場では、小学生くらいのあどけない児童が喜捨している姿をたびたび見かけた。屋台で買い物をしてお釣りをもらった後、たまたま近くに物乞いの人が居ればそれをあげているようだった。周りにいる人たちは気に留めていなかった。

目標の達成度や反省点について

今回の語学研修では授業と日常生活を通じ、タイ国内を個人で自由に旅行し、1人暮らしをするにあたって必要な日常会話をタイの人々から直接習得する事が出来た。またタイ文字を正確に書き辞書を引くといった自学自習のための基礎的語学力を習得する事が出来た。授業終了後、北タイのチェンマイとチェンライを訪問し、タイでの漆器製作の現場や販売の一端に直に触れられた事は大きな収穫であった。

しかし現在タイ文字で書かれた文章を1人で読むためには時間がかかり、タイ語の文章を書く能力はまだまだ不十分である。これは私自身の日本での準備不足と、初めて外国へ渡航し生活するに際して様々な事柄が初体験で、慣れるまでに予想以上の時間がかかってしまった事に起因すると思う。今後、

日本ではタマサート大学で学んだテキストの復習を中心としてタイ語学習を継続していく。また今回の貴重な経験を踏まえ、日本国内で必要な調査道具の調達や、下調べなどを済ませておくことで次回渡航の際には効率的なフィールド調査を実施したいと考えている。



タマサート大学の先生、佐治史さんと私。